

「原子力と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム」企画案

平成 24 年 7 月 26 日  
日本原子力研究開発機構  
核物質管理科学技術推進部

1. 表題:原子力と核不拡散、核セキュリティに係る国際フォーラム  
(International Forum on Nuclear Energy, Nuclear Non-proliferation and Nuclear Security)

2. 日程:2012 年 12 月 12 日(水)－13 日(木)

3. 開催機関:

主催:日本原子力研究開発機構

共催:日本国際問題研究所、東京大学大学院工学系研究科

4. 会場:東京大学 伊藤国際学術研究センター

5. 概要

福島第一原子力発電所事故を受け、現在、我が国では原子力政策の見直しが行われているが、見直しの結果がいかなるものになるにせよ、核物質が我が国に存在し続ける限り、核不拡散、核セキュリティ確保に引き続き留意が必要である。特に燃料サイクルのバックエンドにおいて核不拡散、核セキュリティ確保の重要性は高い。

本フォーラムでは、現在、政府内で検討されているバックエンドにおけるそれぞれのオプションに関して、核不拡散及び核セキュリティの観点からの課題及び課題に対する対応方策を議論する。

また、アジアにおいては、日本の原子力政策の如何にかかわらず、原子力発電が拡大していくことが想定される。アジア諸国が、核不拡散、核セキュリティを確保しつつ、原子力発電を進めていくことが地域全体にとって重要であり、この観点から、アジアの原子力利用における核不拡散・核セキュリティ確保の方策、日本等の原子力先進国を含む本分野の多国間協力枠組みの実現性について供給国側の視点から議論する。

6. 議題:

(1) 基調講演:日本、IAEA 及び欧米における原子力利用と核不拡散の取組み

(2) パネル 1:バックエンドにおける核不拡散、核セキュリティ確保の方策

(3) パネル 2:アジアの原子力利用における核不拡散、核セキュリティ方策、多国間協力枠組み

7. 構成:

•全体で 1.5 日(昨年度同)

•フォーラム 1 日目:午前 JAEA 理事長挨拶と講演、午後はパネル1とレセプション

•フォーラム 2 日目:パネル 2 と閉会挨拶

## 8. 講演:

- 以下のテーマから講演を4つ
- 講演候補者について、(1), (2)は必須、(3)か(4)のいずれか、(5)か(6)のいずれかを想定

### (1) 日本の原子力政策と新たな原子力規制体制

- 日本政府関係者

### (2) 核燃料サイクルのバックエンドにおける核不拡散、核セキュリティ確保の方策

- IAEA

### (3) 原子力利用、核不拡散に関するEUの取組み

- 欧州委員会共同研究センター

### (4) 仏新政権の原子力政策、核不拡散政策

- 仏国原子力・代替エネルギー庁

### (5) 米国の原子力利用と核不拡散の取組みと日本への期待

- 米国政府(エネルギー省(DOE)もしくは国務省(DOS))

### (6) 原子力平和利用と核不拡散を両立させるための取組みに関する国際動向

- 米国シンクタンクの核不拡散問題専門家

## 9. パネル討論の内容

### (1) パネル1:燃料サイクルのバックエンドにおける核不拡散、核セキュリティ確保の方策 現在、検討されているバックエンドにおけるそれぞれのオプションに関して、核不拡散及び核セキュリティの観点からの課題、課題に対する対応方策を議論

- それぞれのオプション(再処理、直接処分)に伴う核拡散、核セキュリティ上のリスクに関する各パネリストの考え方
- 核拡散、核テロのリスクに対する国際的な懸念への対応方策
  - ✓ 再処理オプション:プルトニウム取扱量や蓄積量、輸送が増えることに対する保障措置、核セキュリティ上の対応措置
  - ✓ 直接処分オプション:長期的な保障措置、核セキュリティ確保の方策
- 海外に保管されているプルトニウムの処分方策等

#### •座長候補:

- ✓ 日本人専門家

#### •パネリスト候補(5名:米国政府1名、IAEA1名、EUあるいはフランスから1名、専門家1名、日本1名)

- ✓ 米国政府関係者(=基調講演者)
- ✓ IAEA(=基調講演者)
- ✓ EUあるいはフランス(=基調講演者)
- ✓ 米国シンクタンク専門家(=基調講演者)
- ✓ 日本

(2) パネル 2:アジアの原子力利用における核不拡散、核セキュリティ方策、多国間協力  
枠組み

アジア地域における原子力利用拡大に伴う核拡散、核テロリスクを低減する観点から、以下について議論

- アジア地域の原子力発電の現状と今後の見通し(既存の原子力発電利用国、新興の原子力発電利用国)(以下の議論の導入として、座長もしくは日本人パネリストより紹介)
- 各供給国の原子力輸出政策(原子力資機材の輸出にあたって、受領国側に求める核不拡散、核セキュリティ担保措置)
- 多国間枠組みの実現可能性
  - ✓ 地域的な 3S(保障措置や核セキュリティを中心に)の枠組み  
枠組みに参加を促すための誘因
  - ✓ 地域的な燃料サイクル管理の枠組み(フロントエンド、バックエンド)  
アジアにおける多国間管理枠組みの意義
  - ✓ 両者を統合したような構想  
EURATOM のような地域枠組みのアジアにおける実現可能性
- 座長候補:
  - ✓ 日本人専門家
- パネリスト候補:(以下から 5 名)
  - ✓ 韓国:韓国核不拡散核物質管理院 (KINAC)
  - ✓ 中国:上海社会科学院/中国国家原子能機構(CAEA)/大学教授
  - ✓ カザフスタン:カザフスタン原子力庁/Kazatomprom
  - ✓ 露国:ROSATOM
  - ✓ 米国核不拡散専門家
  - ✓ 豪州:豪州保障措置・核不拡散局 (ASNO)
  - ✓ 日本